

— 第百貳拾六号 —

(2013年冬号)

タンクよありがとう

12月3日(火)陶山神社の神主である宮田宮司さんに来て戴いて、イワタニ様と工房全員揃ってお祓いを受けました。10tタンクを今日撤去しますので、40年間獅子奮迅の活躍をしてくれた感謝の気持ちと、新しく設置された1tタンクにこれから稼働する窯の安全を託しながら、厳粛な気持ちでお祓いを受けました。宮司さんが「タンクは心臓でガスは血液ですネ。」と言われ、分かり易い例えでしたので納得しました。

夕方、10tタンクのあった場所が平地になり、周りの光景が一変しました。しん窯の新しい時代の新生しん窯の出発の儀式であると思いました。

薪から石炭、重油、ガスに変わり、自動制御もついて節目節目に時代の急速な流れに必死でついていきました。幸い、若かったので突っ走ってこれたのだと思いました。また、自動制御装置を導入した時、これまでの12時間焼成を18時間焼成にヒートカーブを調節しました。自動であるが由に少しでも長く焚く事が出来るし、より強い食器を創れると思ったからです。おやじが週に一度40時間焼成のバカでかい単窯に薪で焚いていた頃と比べ融世の感がします。窯を焚くからこそ窯やきなのです。時代は変われども窯やきは世話やきの環境は未来永劫変わる事はないでしょう。



サンタプロジェクト

サンタさんが再びしん窯の煙突に登場しました。去年に続いて二回目のサンタプロジェクト(代表 岩永美保さん)なのに、早、有田の冬の風物詩になりました。私たちの住んでいる黒牟田・応法地区は約 25 軒位の窯元さんがやきものづくりに従事しています。煙突も役目を終えたモノ、現役など数 10 本も眺める事が出来ます。煙突のある風景、煙突が似合う町有田ならではの心弾むイベントなのです。

街づくりは若者、よそ者、のぼせ者、そして女性と言われますが、近くの窯伯父山の長女美保ちゃん(30代)は、女性らしい目線で、使われていない煙突にサンタさんを登らせる柔軟な、そして斬新な発想に拍手です。たくさんのお客様がカメラのシャッターを押しておられます。私たちもサンタさんの表情を眺めているだけで心がホッコリなるから不思議です。18:00 から 22:00 までライトアップもされています。



今年の 10 大ニュース

- ① しん窯社長の母、綾子(満 92 才)永眠する。
 - ② 藤原和博氏プロデュースによる世界時計 a r i t a 完成。
 - ③ スヌーピージャパネスク制作委員会共同で、風のスヌーピー完成。
 - ④ 人間国宝 14 代酒井田柿右衛門先生が永眠されました。
 - ⑤ 有工 114 年目にして初の甲子園出場。8 月 14 日、私も甲子園にかんづめ状態でした。
 - ⑥ しん窯新生プロジェクトスタート。
 - ⑦ 秋の陶磁器まつりで 5 窯による薪窯饗宴。
 - ⑧ L P G タンク世代交代する。
 - ⑨ メゾンオブジェ出展エントリーならず。
 - ⑩ 有田いろはかるたの一部が N H K 全国放送。
- 以上、悲しい事、辛い事もありましたが、おおむね明るい話題を発信した一年でした。来年は、もっとうま(馬)くいきますように。本年も応援して戴きほんとうにありがとうございました。

タンクとの思い出(前号に続く)

⑥ 自動制御装置導入そして炎との闘い

ガス窯築窯から約 10 年位は殆んど独りで炎と闘ってきたが、急速な自動化、I T 化の潮流の中で自動でヒートコントロールをしながら制御する自動制御装置が導入された。つまりコンピュータに炎のコントロールを伝えるのだ。もちろん手動で炎を にコントロール出来るからこそコンピュータにインプット出来るのである。私は、自動制御の特性を生かして、従来の 12 時間焼成から 18 時間焼成に伸ばした。しかし、手動も自動もそばについていてもいなくても様々なトラブルが続出する。だから、何か不都合があった時にはブザーで知らせる報知機も同時に に取り付けた。初めの頃は、一週間に一回、それから一ヶ月に一回、今では一年に一回あるかないかである。深夜けたたましいブザーの音に起こされ苦勞した。やきものづくりの分業工程の中で窯は最終工程の仕上げの仕事である。この窯の良否によって作品や商品に大きな影響を及ぼす。窯元が窯焼きは世話やきと呼ばれるゆえんだ。その最終工程である窯のトラブルは致命傷なのである。工房と窯は至近距離にあるが、寢床に入って爆睡している時などブザーによって飛び起き、数分もかからないで窯の前に立っている。不思議な位、俊敏な動作であり、眠気も吹っ飛んでしまう。早速冷静になって点検を始める。そして窯の専門医である山口善博氏に電話をする。深夜であろうと何時であろうと快く駆けつけて下さるから、全幅の信頼と共に、感謝をせずにはおれなかった。

最終的には、山口氏がしっかり直して元の窯の状態に戻してくれていたが、そばにいて献身的な仕事ぶりに何度救われた事か、その後原因を聞きその対応に耳を傾け、少しずつガスや自動制御やタンクや窯場周辺全般に詳しくなっていた。同時に女房も飛び起きてきて復活したころは3人でホッとした雰囲気共有し、今でもその当時の時空間を思い出しては人間の絆の強さ、深さ、素晴らしさと共におもいやりを宝物にしている。山口善博氏に、またご家族に心からお礼を述べたい。眠たい時にブザーで起こされる時の私と女房はまさに炎と闘う戦士であり戦友である。10tタンクと共に40数年間よくぞつきあってくれたと心から感謝の言葉を言いたい。特に女房は具体的に機械や炎をいじるわけではないが、心配そうに暖かく私たちを見守ってくれたり、回復した後は熱いお茶で一息入れてくれる。山口氏、女房はしん窯の縁の下の強い強い支えである。ガス窯41年、10tタンク40年半世紀近く喜びも悲しみも交互に体験してきたので、設備や機械はモノは言わないが、共に窯やき道を歩んできた真の同志である。

⑦新しい時代に向かって

2013年11月中旬頃から10tタンクの撤去工事が始まり、コンパクトな1tタンク2基と交換するが、感無量と言わざるを得ない。商品は時代の要請で短納期、多品種少量になったが、いつでも安定供給できるのはガス窯のおかげである。ガス窯も3基据えているが、数年前規模に応じて4m³から2m³に小型化した。今は、男性職人さんのローテーションで窯当番を決めているが、全員が専門知識を身につけながらチェック&チェックを積み重ねながら、何事もなく同じような品質で窯上りしている。ここ数年、ブザーで起こされる事もない。

40年を過ぎて、何となく窯の様子を客観的に見られるようになって、心おだやかな日々を過ごしている。自動制御装置も日進月歩で進化しているので、少し変化しているが、私の出番はあまりない。橋口博之(48)専務を筆頭に職人さんの技量と新技術の機械設備を導入しながら新時代を確立して欲しい。—続く—

